

“切手の種類” あれこれ紹介

平 岩 道 夫(切手評論家)

日頃“切手”と呼ばれているものにも、実はたいへん多くの種類がある。

ところが日本ではなぜか切手を集める、というと、一般に記念切手のことをさしているようだが、これは大きな誤りだ。切手を大きく分けてみると、通常切手と特殊切手の2つになる。まず通常切手だが、これは全国の郵便局でいつでも売っている切手——つまり発行の期間や枚数に制限なく、必要な枚数だけいくらでも印刷される切手のことである。普通切手、速達切手、書留切手、航空切手などがこれに含まれる。

一方、特殊切手とは、何かを記念したり、目的をもって発行される寄付金つき切手のようなもの、正確に言えば、発行期間が決まっており、原則として一定期間のみ売り出される切手のことをいう。

こういったものをさらにくわしく分けてみると、30種以上にもなるが、そのうちおもなものをあげてみると——。

▶普通切手◀

日本最初の切手(明治4年発行の竜切手)や世界最初の切手(1840年にイギリスで発行されたペニーブラック)がそれで、一般の郵便料金用として発行されたものをいう。発行枚数に制限のない切手——これが普通切手の特徴ということになる。

現在使われている40円の“菜の花と蝶”や60円の“平等院梵鐘”を描いた切手は、



ともに普通切手である。参考までに全国各地の郵便局で売り出されている普通切手は、1円(日本郵便の父・前島密を描く)から1,000円(吉祥天立像)まで、ざっと30種類がある。写真は普通切手の一部。

▶記念切手◀

公的記念日、特別な行事、大規模な国際会議など、広く国民に知らせるために発行される切手のこと。国ができて何年記念、有名人がこの世を去って何年記念、国民体育大会記念といったものがそれである。

ちなみに日本最初の記念切手は、1894年(明治27年)3月9日に発行された明治天皇銀婚式記念切手(略称=明治銀婚)で、式銭と五銭の2種があり、切手の意匠は2種とも“鶴と唐草模様”だ。

このほかに、航空切手、寄付金つき切手(付加金つき切手とも呼ばれている)、速達切手、書留切手、小包切手、不足税切手、官用切手、配達証明切手、新聞切手、軍事切手などがある。